

第4章 コース実施に向けた作業と今後の課題

第4章 コース実施に向けた作業と今後の課題

第1節 「満点追求コース（仮称）」の実施に向けて

次年度、当プロジェクトの第三段階の仕事は、コースシリーズ全体の構想の中で、その一部を実際に実施することである。まず最初に手がけるコースは「満点追求コース」とした。このコースは、技能の高度な洗練と作業改善や技能向上に対する妥協しない姿勢という側面をテーマとするコースであり、高度熟練技能者へのステップアップシリーズの中でも重要な位置を占めるばかりでなく、従来の職業訓練の発想の枠を越える質を持っているコースである。こうした点に鑑みてプロジェクト研究の中でまず第一に実施するコースとして選んだ。コーステーマ、コースプログラムについては以下で述べるが、その実施に向けて引き続き行うべき作業は次のとおりである。

(1) コースプログラムの再検討

コースの流れ、盛り込まれる技術的内容、指導法等、全般にわたって、時間配分も含めて詳しく検討する。指導案の形にまとめる。

(2) 教材の検討・準備

コースの訓練目標を効果的に達成するために、配付資料、課題等の教材を工夫し、準備する。

(3) コースニーズの確認調査

提供する Off - JT コースを明らかにした上で、その訓練ニーズを再確認するために調査を行う。企業アンケート調査と企業面接調査を行う。面接調査に際しては、コースに対する意見も合わせて聴取する。

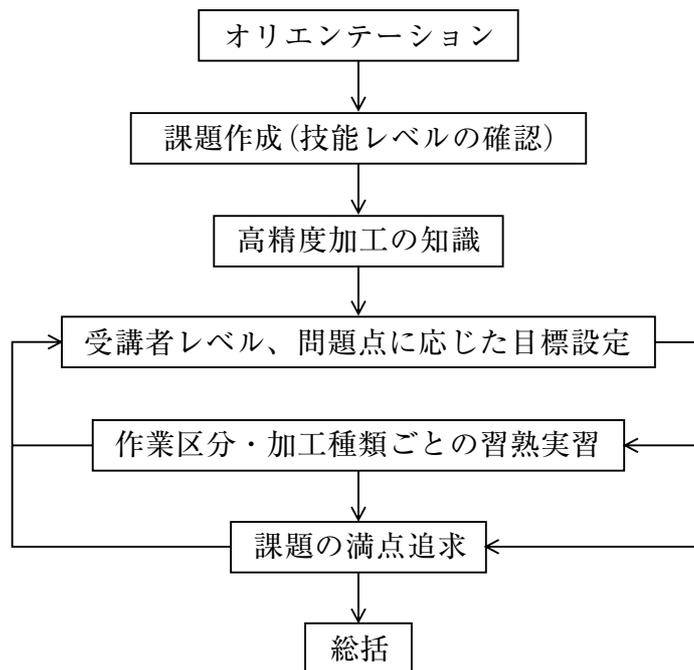
(4) 調査に基づくコース内容調整

ニーズ調査で得られたコースへの期待、意見をもとに、適切な内容調整を行う。

(5) 受講者募集

定員 10 名程度。主としてニーズ調査で確認された有望企業を対象に受講者募集を行う。

「満点追求」コースの流れ



「オリエンテーション」：

コース目的、概要の説明の他、技能五輪選手の作業の様様をビデオで見る。

「課題作成」によるレベル確認：

①～④のコースに先立って、それらを前提とせずに実施するため、受講者の技能レベルを確認するための課題作業をはじめに行う。受講者のレベルに応じた目標課題の設定をするためのもので、この部分に長時間をかける必要はない。また、シリーズの流れの中で実施される場合には、不要となるかも知れない。

「高精度加工の知識」：

必要な知識について、このレベルに応じた確認・指導を行う。

「目標設定」：

各種要素加工の応用実技に先立って、受講者のレベルに応じた追求の目標を立てる。加工要素の選択・組み合わせ、要求精度のレベル、要求項目の組み合わせなどが、受講者の技能レベルによって異なる。

「習熟実習」：

それぞれの目標に従い、グループおよび個別の指導を行いながら目標達成訓練を行う。達成度に応じてより高い目標を立て、再度チャレンジする。

「課題への満点追求」：

課題を通して加工し、訓練成果の総合をはかる。

表4-1 「満点追求コース」日程計画

	午前		午後	宿題
	オリエンション	実習と 実習前準備 (予備実習)		
第1日			「課題作成」確認の為に課題作成	測定評価
第2日	「加工精度向上」加工知識の追加		「課題満点追求」(要)日題満点追求(要)目標日題満点追求(要)定型練習	工程立案作成
第3日	「満点追求」実習	要素作業習熟、ポイントのチャエック		同上
第4日	「満点追求」実習	要素作業習熟、ポイントのチャエック	「課題への満点追求」 通し加工	研修報告作成 資料準備
第5日	「通し加工」課題への満点追求	報告資料準備	報告会	修了式

第2節 今後の課題

2-1 次年度中の課題

コース実施後に受講者の企業へ出向き、フォローアップ調査を行う。コースの改善点、今後の課題等を見いだす。

2-2 当プロジェクト後に残る課題

当プロジェクトの企画予定は次年度までとなっているが、そこから生まれる今後の研究開発の課題はたくさんある。

(1) コースパッケージの作成

「満点追求」コースの実施ノウハウ、教材等を普及用資料として「コースパッケージ」にまとめる。

(2) シリーズの他のコースの開発・実施

高度熟練技能の維持・継承という大きくかつ困難な課題に応えるためには、さまざまな種類のコースによる「シリーズ」が提供されねばならないということが、当プロジェクトの基本的結論であった。次年度実行する「満点追求」コースに続いて、シリーズの中核を為すコースから順次開発実施していくことが望まれる。

(3) OJTの制度化・目的意識的整備

当プロジェクトの基本的スタンスは高度熟練技能者の能力形成はOJTが中心にあるということである。そのことを前提にして、その問題点を補うためにコースシリーズの開発に取り組んだ。しかし、もう一方では今日の技術的・組織的条件の中で様々な問題を抱えているOJTそのものの改善整備が必要であることも重要である。我が国ではいわゆる「インフォーマル」なOJTが圧倒的に多いことも考えると、この面での開発研究はきわめて重要度が高い。

この研究開発からは、目的的に整備され、制度化されたOJTと緊密に組み合わせられた、現場Off-JTの整備という課題も浮かび上がってくるだろう。